

令和3年度第1回 横浜市久良岐能舞台指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和3年5月20日（木） 9時30分から11時00分まで
- 2 場 所 横浜市役所18階会議室なみき18
- 3 出席者 横山 太郎 委員長、足立 文 委員、河瀬 宏則 委員、諸貫 洋次 委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事内容

議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 応募団体面接審査                     <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 提案者プレゼンテーション</li> <li>(2) 提案者に対するヒアリング</li> </ol> </li> <li>2 本審査                     <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 応募団体制限事項等の確認について</li> <li>(2) 審議及び採点</li> </ol> </li> </ol>
議事・ 委員意見 等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会                     <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</li> <li>(2) 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市久良岐能舞台指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「応募団体面接審査」は公開、「本審査」は非公開とした。</li> </ol> </li> <li>2 応募団体面接審査 株式会社 シグマコミュニケーションズによる提案書のプレゼンテーションの後、委員による質疑を行った。                       &lt;主な質疑応答&gt;                      (以下「・」: 委員、「→」: 提案者)                      ・売上高の構成を見ると、売上原価について、人件費等々固定費のかさみぐあいが気になる。今後、コロナの関係で収益が思うように上がらない可能性がある中で、そうした固定費をどのように回収していくのか、売上高を上げる方向で考えているのか、あるいは固定費を削減していく方向で考えているのか                      →人件費は、雇用の責任もあるので、削るということは全く考えてない。消耗品などの管理をしっかり行って、削減できる部分は削減していく。売上げを上げていくという方向で考えている。貸し館利用の増加や、講座の受講生の増加、あとは助成金の獲得なども積極的に行うことを考えている。                       ・自主事業収入を600万円で見込んでいる一方で、自主事業費は670万円を見込んでいる。自主事業の収支を考えると、見込みの時点でマイナスとなっているが、あえて赤字となることを見込まれる事業を行う理由                      →能楽公演を年に1回やっているが、演者を多人数呼んでやる公演となっている。一番大きな事業になるが、久良岐能舞台は非常に狭い施設のため、見所の定員数も限られている。お客様を呼んでも、最大人数が限られているので、事業で収支バラ</li> </ol>

スを取り、プラスになるということがなかなか難しい環境となっている。

・稼働率が今 25.6%で、これから 10%上げていくと提案されているが、コロナ前は何%だったのか。全体的な水準として、公共施設の稼働率 25%はあまり高くはないと思うが、それを 5年間で 10%上げていくということはなかなか難しいと思う、具体的にどうやって上げていこうと考えているのか。

→人を集めるということをいろいろ考えている。公演などを行い、様々な広報を使って進めていく。

稼働率は 2020 年度が 25.6%で、2019 年度が 33.9%になっている。2019 年度、コロナではない年よりも少しだけアップできるような目標に設定している。

能楽関係だけで伸ばすのは難しいため、コロナの影響により利用が増えている婚礼の前撮りなどを受け入れて、伸ばしていく。

・これからの 5年で、新しく行う取組は何か。1つ2つ、PRしてもらいたい。

→これまでの経験から人の流れや、集め方がわかってきた。例えば、令和 2年度は新たに、庭園をこれまで以上に活用した雅楽のコンサートを行い、地元の方に反響が大きく手ごたえを感じている。

継続している事業を精査し、集客等に繋げていく。

・助成金を積極的に活用していきたいと提案されているが、方針のようなものはあるのか。

→これまでは能楽公演、一番お金のかかる公演になるので、助成金をもらってきている。今後も能楽公演について助成金の申請を続けていこうと考えている。

調べていくと、ほかにも様々な助成金があるようなので、狂言公演なども助成金の活用を考えている。

・初年度ぐらいはもうおよその事業計画は固まっているのか、ほぼ例年通りのラインナップなのか。

→毎年必ずやるような公演が、いくつか決まっている。ほかにも公演を追加していくかどうかは、今後、判断していく。

・コロナで、客席を減らす対応などをしていると思うが、今、状況はどうか。

→久良岐能舞台の見所は、詰めれば大体 130 名ぐらい。以前は、あと五、六十足して 200 名入れるように、池の前にテラスをつくるなど考えていたが、現在は、制限が入って 70 名ぐらいでやっている。しかし、その人数が久良岐能舞台にとって一番合った人数だと感じた。全然ビジネスにならないではないかと言われてしまうが、これはもう久良岐能舞台の宿命であり、70 名でも、内容の濃いものを作っていくことが、一番よい方法だと考え方が多少変わった。

・学校へのインリーチ、アウトリーチは、去年が中止。今年は実施できそうか。

→今年は、実施する。ただ、学校数はかなり絞られてしまうが、かなり人気の高い公演のため、ぜひ実施したいと考えている。

・婚礼の前撮りは、件数や収入額などの目標はあるのか。

→能楽が優先で、空いたところに入れている。昨年は年間 60 回ぐらいで、そういうことを通じて久良岐能舞台を知ってもらおう一助にもなると考えている。

・助成金について、情報の収集や、書類を作成するなど、そういったことをする人材がいないと感じた。

	<p>→そういった力のある人材は必要だと考えている。現状は、職員個人個人の特性が活きるように適材適所で活躍してもらっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入の欄に、物販助成金、撮影協力金等がまとまって1項目となっているが、分けたほうがよい。「助成金は幾ら獲得するぞ」、「撮影協力金は幾らぐらいの見込みでやるぞ」など、目標がはっきりした方が良いと考えるが。</li> </ul> <p>→収入の欄の書き方は変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人気のある子供たちへのインリーチ・アウトリーチ事業の成果が、公演事業と連携できていないと感じる。</li> </ul> <p>→子供向け事業の際に、公演のチラシを配布するなどにはしているが、なかなか他の事業と関連づけるということができていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本社の役割と現場の役割は、今までどうしてきていたか。また課題はなにか。</li> </ul> <p>→本社も様々な現場や舞台を経験しているが、能舞台自体で運営している久良岐能舞台は特殊。アウトリーチなど外に出ていくときは、本社から、照明・音響・映像など様々な人たちが協力的に集まってくれ、とてもやりやすい。本社の活性化にもなっている。</p> <p>3 本審査</p> <p>(1) 応募団体について、応募団体の欠格事項のうち、市税等の滞納がないこと及び暴力団又は暴力団経営支配法人等ではないことが確認された旨を事務局から報告。</p> <p>(2) 提案書類及び面接審査の内容を踏まえ、委員による意見交換、各評価項目の採点を行った。</p> <p><b>【審査結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案者：株式会社シグマコミュニケーションズ 総得点629点／880点（委員4名×持ち点220点）</li> </ul> <p>なお公募要項に、指定候補者及び次点候補者となるためには、選定評価委員会の定める最低基準点（加減点項目を除く評価基準項目の合計200点満点の6割以上）を満たすことが必要である旨の記載があり、4名全ての委員の採点がこの基準を満たしていることを併せて確認した。</p>
<p>審査結果</p>	<p>応募団体：株式会社シグマコミュニケーションズを指定候補者として横浜市長に報告する。</p> <p>なお、審査結果及び講評は、本日の意見を集約し、委員長確認のうえ報告書にまとめる。</p>